

2025 年度 総合研究所特別研究員 研究活動報告

氏名	相澤 みのり
研究テーマ	平田国学の薩摩における受容と顕幽論
研究概要	近世後期から続く薩摩藩における平田国学（平田篤胤の思想）の受容状況と、これに関連する幕末から近代の平田国学の展開を明らかにする。とくに篤胤の顕幽論に注目し、平田国学に対する従来の固定的な評価を再検討する。

1. 研究活動の概要と研究成果	<p>維新変革の主役ともいえる薩摩藩における平田国学の受容実態に着目し、薩摩における特徴的なスピリチュアルな思想と国学の親和性、および近代の宗教政策への展開の可能性について取り組んだ。</p> <p>本年度は鹿児島市、宮崎県高原町での国学者に関する史料調査をはじめ、新潟県上越市、長野県上田市などに残る薩摩藩士や薩藩浪士隊に加わった平田門人らの調査を積極的におこない、未発表・未翻刻の一次史料等を蒐集した。このうち、薩藩浪士隊に関わった神職の神祇信仰と明治のキリスト教、さらにそれらと平田神学の関連について論文化し、併せて学会発表をおこなった。</p>
2. 学術論文・学会発表等	<p>〔論文等〕</p> <p>単「成澤寛経と平田国学—忠固時代の上田と「知」の行方」岩下哲典編『幕末の老中松平忠固』、pp. 435～457、吉川弘文館（2025年7月、査読有）</p> <p>単「キリスト教伝道者になった平田門人—水野功の受洗と『明烏迷の目醒』」『佛教大学総合研究所紀要』第33号、pp. 33～48、佛教大学総合研究所（2026年3月、査読有）</p> <p>〔発表〕</p> <p>単「キリスト教徒になった平田門人—神職水野功の受洗と天御中主神」神道宗教学会 第79回学術大会（2025年12月7日、國學院大學、対面開催）</p>
3. 競争的資金等への応募と採択	<p>2025年度科学研究費（研究活動スタート支援）「幕末維新期の薩摩藩における平田国学の受容—「雄藩の国学」をめぐる新視角研究課題」（採択期間2025～2026年度）。</p>
4. 今後の課題後の課題	<p>調査で入手した史料の分析をすすめて、幕末の薩摩島津家の国学受容ならびに霧島山をめぐる天孫降臨の言説、国学者鈴木重胤と薩摩藩の関係について論文化を目指す。また平田篤胤の漢籍受容について理解を深め、今後の研究に紐づけていくことを課題とする。</p>